

形成外科

1. スタッフ

科長（兼）教授 久保 盾貴

その他、准教授1名、助教5名、医員6名、事務補佐員1名（助教は特任を含む。）

2. 診療内容

古典的には、外科的手法により外表異常の治療を担当する診療科であった。しかし、現在ではそれにとどまらず、形成外科的な特殊手術技術を応用できるすべての疾患を対象とする診療科になっている。

先天性の外表異常としては、頭蓋顔面骨形成異常症、唇裂口蓋裂、眼瞼下垂症、小耳症、埋没耳、多指症、合指症、漏斗胸、尿道下裂、外性器分化異常、血管奇形（動静脈奇形など）、出臍などの身体の表面に現れる形態の異常、黒あざ、茶あざ、赤あざなどの色調の異常などが対象疾患である。においの異常である腋臭症も対象疾患である。なお、当科ではあざに対してのレーザー治療は行わず、その治療が望ましい場合には市中の関連病院に紹介している。

後天性の外表異常としては、外傷・熱傷・手術などによる外表組織欠損、癬痕や変形、癬痕性脱毛、皮膚潰瘍、顔面骨折、耳下腺腫瘍、顔面神経麻痺、切断指、指欠損、爪欠損、陥入爪、巻き爪、下肢静脈瘤、リンパ浮腫、皮膚軟部組織良性腫瘍・悪性腫瘍、慢性臀部膿皮症などの治療のほか、診療各科から、眼窩内腫瘍、甲状腺眼症、食道癌手術後の食道欠損、気管欠損・気管狭窄・気管皮膚瘻、乳癌術後乳房欠損、腹壁癬痕ヘルニア、骨盤内臓器全摘出後死腔、直腸陰瘻など実に様々な疾患の治療依頼を受けて対応している。

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

	午前	午後
月	一般外来	
	血管腫・血管奇形	血管腫・血管奇形
火	一般・皮膚腫瘍外来	下肢静脈瘤
	乳房再建（初・再診）	
水	一般外来・再建外科外来	
木	一般外来・リンパ浮腫	下肢静脈瘤
	乳房再建（再診）	
金	一般外来	

(2) 検査

診療科独自の検査としては随時下肢静脈瘤のカラー Doppler 診断装置、3次元体表撮影装置による検査を行っている。

(3) 病棟体制

医員1名が直接の患者受け持ちを行い、それをスタッフが指導する体制をとっている。毎週金曜日の午前中に全入院患者に関して診療科としてのカンファレンスを行い、その直後に教授回診を行っている。また、火曜日午後には乳房再建症例の回診が行われる。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

年間 900 人程度の新患の診察を行っている。また年間の診察患者数は延べ 8,000 人程度である。外来通院で行う手術は中央手術室のほか主に形成外科手術室を用いて行っている。

(2) 入院診療実績

年間約 750 件程度の入院手術を行っている。この中には当科単独での手術のほか、外科系各科と共同で行う手術もある。極めて多種多様な手術を行っているが、近年では乳房再建手術がかなりの数に上っている。年間の乳房再建手術件数は約 200 例で、全国的にもトップクラスである。

(3) 検査

当科として行っている検査は、血流検査としてのカラー Doppler 検査、軟部組織腫瘍に対するエコー検、3次元体表撮影装置による検査などである。

5. その他

レーザーを用いた下肢静脈瘤治療（年間約 25 例）、神経移行術と神経移植術を併用した顔面神経再建などを行っている。

日本形成外科学会認定施設（85-605A）

日本形成外科学会専門医 8名

日本がん治療認定診療内容定医1名

手術スケジュール

		月	火	水	木	金
手術日	午前	◎		◎	◎	
	午後		○		○	○

(注：○は通院手術のみ)

手術内容区分

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	
外傷	25		8			1	34
先天異常	30		1				31
腫瘍	515		17			54	586
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	38		2			22	62
難治性潰瘍	36		3			1	40
炎症・変性疾患	30	1	15			40	86
その他	29		4			1	34